

県立高等学校の入学者選抜に関する調査 ＜一般入学者選抜、定時制入試＞

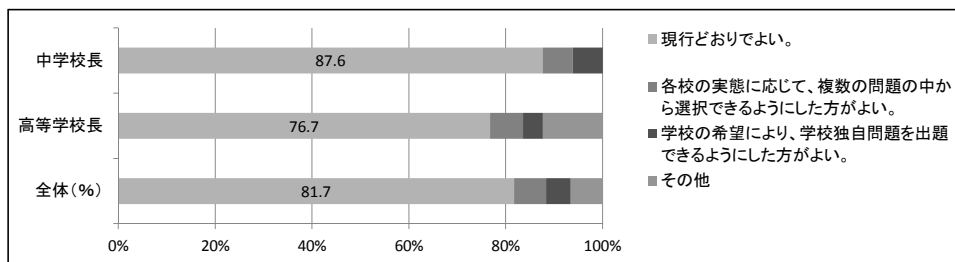
調査対象 県内公立中学校長 64名 (中学校187校中、64校を抽出して調査)
 県内公立高等学校長 73名 (全ての高等学校長に対し調査)
 調査期間 平成22年5月～6月(中学校長)
 平成20年3月(高等学校長)

I 一般入学者選抜について

(1) 学力検査

現行：5教科(国語、数学、社会、英語、理科)とし、各教科50分で実施。全高等学校が共通問題で実施している。

	中学校長		高等学校長		全体(%)
	人	%	人	%	
ア 現行どおりでよい。	56	87.6	56	76.7	81.7
イ 各校の実態に応じて、複数の問題の中から選択できるようにした方がよい。	4	6.2	5	6.8	6.6
ウ 学校の希望により、学校独自問題を出題できるようにした方がよい。	4	6.2	3	4.1	5.1
エ その他	0	0	9	12.3	6.6
合計	64		73		



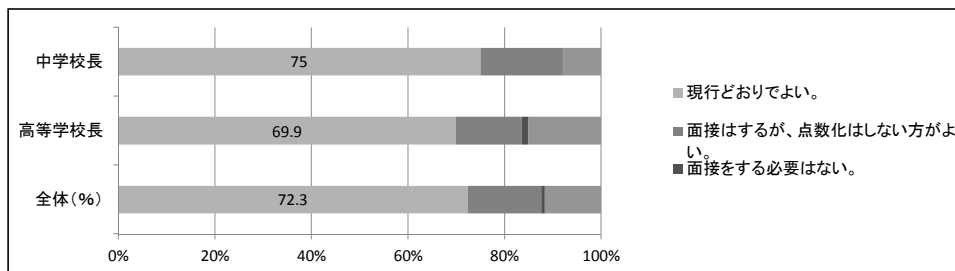
※ エ「その他」の内容

高等学校	傾斜配点を行う。
	各学校で指定する教科により実施。

(2) 面接

現行：受検者全員に実施し、点数化している。個人面接又は集団面接とし、入試要項に明示している。

	中学校長		高等学校長		全体(%)
	人	%	人	%	
ア 現行どおりでよい。	48	75	51	69.9	72.3
イ 面接はするが、点数化はしない方がよい。	11	17.2	10	13.7	15.3
ウ 面接をする必要はない。	0	0	1	1.4	0.7
エ その他	5	7.8	11	15.1	11.7
合計	64		73		



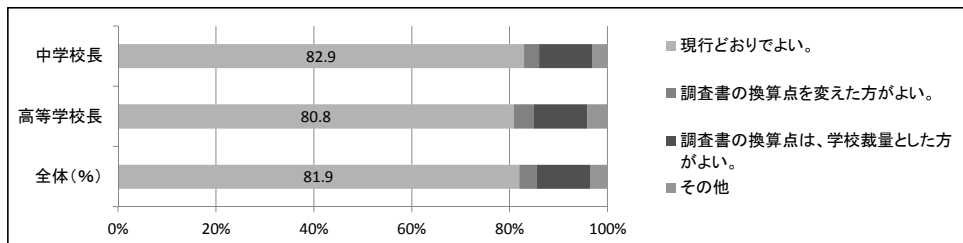
※ エ「その他」の内容

中学校	面接の配点割合を高くする。
	面接の点数化の基準を明確にする。
高等学校	面接実施は学校裁量。

(3) 調査書の換算点

現行：調査書は、2、3年の学習の記録について、学力検査を実施しない教科の比率を高くして換算している。

		中学校長		高等学校長		全体(%)
		人	%	人	%	
ア	現行どおりでよい。	53	82.9	59	80.8	81.9
イ	調査書の換算点を変えた方がよい。	2	3.1	3	4.1	3.6
ウ	調査書の換算点は、学校裁量とした方がよい。	7	10.9	8	11.0	10.9
エ	その他	2	3.1	3	4.1	3.6
合計		64		73		



※ イの場合「換算点」の具体例

中学校	5教科以外の換算点を低くする。
高等学校	全教科の換算点を同じにする。

※ エ「その他」の内容

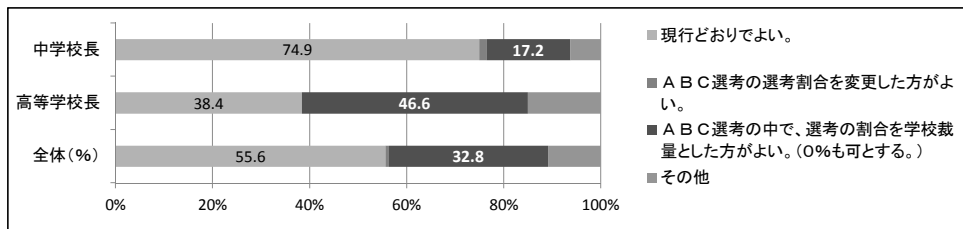
中学校	1年から3年までの学習成績を評価対象とする。
高等学校	1年から3年までの学習成績を評価対象とする。

(4) 選考方法

現行：ABC選考とし、各選考割合については、各高等学校長が7通りの中から選択・決定することとしている。

【A選考】50～80%【B選考】10～40%【C選考】10～20%

		中学校長		高等学校長		全体(%)
		人	%	人	%	
ア	現行どおりでよい。	48	74.9	28	38.4	55.6
イ	ABC選考の選考割合を変更した方がよい。	1	1.6	0	0.0	0.7
ウ	ABC選考の中で、選考の割合を学校裁量とした方がよい。(0%も可とする。)	11	17.2	34	46.6	32.8
エ	その他	4	6.3	11	15.1	10.9
合計		64		73		



※ エ「その他」の内容

中学校	入試制度全般を見直す中で、ABC選考についても検討すべき。 高校の裁量を大きくする方向で改善すべき。
高等学校	【A選考】のみ、或いは【A選考】、【C選考】の併用など学校裁量とする。 現推薦制を導入した段階で、B選考の意味がかなり薄くなった。C選考は定員を大幅に超える学校にのみ適合する方法であり、多くの学校では意味をなさない状況である。 推薦入試も実施しているのでABC選考は無くし、1回の選考とする。 ABCの選考順序や調査書点の比重についても学校裁量とする。

II 定時制課程の入試制度について

現行：杜陵高校は、前期日程・後期日程とし、それぞれに定員を決めて募集している。

他校は、全日制と同様の入試制度としている。

中学校	杜陵高校の前期・後期日程については、現行通りをお願いしたい。 現行どおりを希望する。今後、定時制課程の必要性が高まるものと考え。 検査は3教科で実施する。
高等学校	全日制と同日程で支障ない。 全日制と同じ日程でよい。問題については、基礎事項の確認が可能な問題を選択できるようにすれば、学力の実態をより把握できるのではないかと。どの教科を実施するかも学校裁量のほうが良い。 全定併設校について、全定の併願は不可として欲しい。 全日制を併願しないのであれば、3科目のみの試験、あるいは面接・調査書のみで選考できるようにする。 社会人を対象とした、学力検査を課さない入試枠を若干名設けてほしい。中学を卒業してから年数を経ると、教科の受検にためらいを感じ、向学心があっても応募をしない社会人に教育の機会を与えたい。 定時制でも、杜陵高校と同様のシステムにした方がよい。

に関する調査集計(中学校長・高等学校長)

「選抜、定時制入試」

調査対象	県内公立中学校長	64名	(中学校187校中、64校を抽出して調査)
	県内公立高等学校長	73名	(全ての高等学校長に対し調査)
調査期間	平成22年5月～6月(中学校長)		
	平成20年3月(高等学校長)		

I 一般入学者選抜について

(1) 学力検査

		全体(%)	高等学校	中学校長
			%	%
ア	現行どおりでよい。	81.7	76.7	87.6
イ	各校の実態に応じて、複数の問題の中から選択できるようにした方がよい。	6.6	6.8	6.2
ウ	学校の希望により、学校独自問題を出題できるようにした方がよい。	5.1	4.1	6.2
エ	その他	6.6	12.3	0
合計		100	100	100

※ エ「その他」の内容

高等学校	傾斜配点を
高等学校	各学校で指定する教科により実施。

(2) 面接

		全体(%)	高等学校	中学校長
			%	%
ア	現行どおりでよい。	72.3	69.9	75
イ	面接はするが、点数化はしない方がよい。	15.3	13.7	17.2
ウ	面接をする必要はない。	0.7	1.4	0
エ	その他	11.7	15.1	7.8
合計		100	100	100

※ エ「その他」の内容

中学校	面接の点数
高等学校	面接実施は

(3) 調査書の換算点

		全体(%)	高等学校	中学校長
			%	%
ア	現行どおりでよい。	81.9	80.8	82.9
イ	調査書の換算点を変えた方がよい。	3.6	4.1	3.1
ウ	調査書の換算点は、学校裁量とした方がよい。	10.9	11.0	10.9
エ	その他	3.6	4.1	3.1
合計		100	100	100

※ イの場合「換算点」の具体例

中学校	5教科以外
高等学校	全教科の換

※ エ「その他」の内容

中学校、高等学校	1年から3
----------	-------

(4) 選考方法

		全体(%)	高等学校	中学校長
			%	%
ア	現行どおりでよい。	55.6	38.4	74.9
イ	ABC選考の選考割合を変更した方がよい。	0.7	0.0	1.6
ウ	ABC選考の中で、選考の割合を学校裁量とした方がよい。(0%も可とする。)	32.8	46.6	17.2
エ	その他	10.9	15.1	6.3
合計		100	100	100

※ エ「その他」の内容

中学校	入試制度全
中学校	高校の裁量
高等学校	【A選考】の
高等学校	現推薦制を
高等学校	導入した段
高等学校	推薦入試も
高等学校	ABCの選

II 定時制課程の入試制度について

中学校	杜陵高校の
中学校	前期・後期
中学校	現行どおり
中学校	必要科目
中学校	検査は3教科
中学校	を実施す
高等学校	全日制と同
高等学校	日程で実施
高等学校	全日制と同じ
高等学校	日程でよい。
高等学校	問題につい
高等学校	全定併設校
高等学校	について
高等学校	全日制を併
高等学校	願しないの
高等学校	必要とす
高等学校	社会人を対
高等学校	象とした、
高等学校	学力検査を
高等学校	定時制で
高等学校	実施す